

【様式1】 令和3年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	養老町	学校名	養老町立広幡小学校		
校長名	竹中 学	対象学年	全学年	人数	83人
項目 該当する項目に ○をつける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
		③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	豊かな心を持ち たくましく生きる子 夢をもって「前へ」				
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や自然環境、伝統文化に関する関心と理解を深め、自分たちの住む地域に誇りと愛着をもつことができるようにする。 主体的に学ぶ力や生活に生きて働く力、自分の思いを人に伝える力など、生涯を通じて学び続けていくために必要な力を育成する。 				
活動の特色・児童生徒の変容など					
1 活動の特色					
<p>全校：①「広幡ふるさとオリエンテーリング」</p> <p>縦割り班（広幡班）で地域を回り、ふるさと学習で学んだことを各ポイントで説明したり、地域の方に歴史や自慢を聞いたりすることを通して、理解を深める。広幡地域を「飯ノ木・緑町地区」「大跡・ロヶ島地区」「岩道・西岩道・南岩道地区」に分けて、3年間ですべての地域を回ることになっている。PTA家庭教育学級と連携して活動を行い、保護者にも一緒に地域を回ってもらい、児童の様子や広幡地域の歴史や文化などを学ぶ機会にしている。</p> <p>②「地域清掃活動（ピカリーン活動）」</p> <p>日頃利用している公民館や神社など、感謝の気持ちを込めて清掃活動を行っている。清掃活動を地域の方と共に行うことを通して、環境を守る心や地域に貢献する心を育てている。</p> <p>③「広幡音頭」</p> <p>伝統として受け継がれている踊り「広幡音頭」を地域の方に教えていただき、5月に実施した運動会の代替行事「スポレク大会」で踊りを発表した。6年生は、園小交流活動の一環として、広幡子ども園の年長児に教える活動をしている。</p> <p>④その他</p> <p>「ウォーキング」「パルシューレ」など、地域の行事に全校で参加することで、地域の方との親睦を深め、ふるさと広幡のよさを味わう予定だったが、今年度は中止となり、参加できなかった。1月の土曜授業日では、毎年「ふれあい広場」を開催し、学校（PTA）、子ども園、長寿会のお年寄りや昔の遊びやレクレーションを通して、三世代交流の場としている。また、「交通安全教室」を実施し、交通安全協会員の皆さんから指導を受けたり、月に数回「読み聞かせ」でボランティアの方に来ていただいたりするなど、地域の人々とのふれ合いも大事にしている。</p> <p>6年：「ふるさとの偉人・先輩に学ぶ」（はりんこタイム・・・総合的な学習の時間）</p> <p>江戸時代の国学者「田中道麿翁」について調べる。毎年、その成果を地域の方々の前で発表しているが、今年度はその行事は中止になった。調べたことを新聞にまとめたり、田中道麿翁の生き方から学んだりしたことを短歌で表現し、地域の公民館祭りで作品として披露している。</p> <p>5年：「広幡の自然に学ぶ」（はりんこタイム）</p> <p>天然記念物「ハリヨ」の住む池の世話をしながら、「ハリヨ」の生態を観察し、広幡地域の豊かな自然を知り、守ろうとする心を育てる。また岐阜県環境技術センターの講師を招き、「環境教室」として水路の生き物調べや水質調査、水が循環する仕組みについて学び、地域の環境保全への意識を高めている。</p> <p>4年：「広幡地域と水のかかわり」（はりんこタイム）</p> <p>輪中地域や現在の広幡地域の利水について、地域の方からお話を聞き（ビデオ）、水との関わりを理解する。また、水害の歴史を学習し、先人の営みに誇りをもつ。実際に、各地区の集会所や神社にある、伊勢湾台風などで浸水した深さを示した表示板などを調べに行くなど、コロナ禍でもできるフィールドワークを大切に活動を展開している。</p> <p>3年：「ふるさと広幡」（はりんこタイム・地域探検・地域の人との交流）</p> <p>探検したり、公民館長さんから話を聞いたりして地域の様子を知るとともに、地域の方とのコミュニケ</p>					

ーションを深める活動を工夫して行った。また、2年連続中止になってしまったが、地域の敬老会に参加してきた。直接の交流はできなくても児童自身ができることを考え、祖父母に手紙やプレゼントを贈る活動をしている。

2年：「ぼく・わたしの町じまん」（生活科・地域探検）

1学期には、学校や学校周辺での生き物みつけで、自然とふれ合っている。2学期には、「まちたんけん」で見つけた町の行事や自慢について区長さんや地域の方、町の名人さんへのインタビューや体験をして地域ならではのよさを知る計画をしているが、今後のコロナ感染の状況をみて探検を行う。

1年：「広幡の自然となかよし」（生活科・園小交流）

学校周辺や公園、神社などに出かけ、季節の自然のお気に入りを探したり、自然を生かした遊びを工夫したりして、こども園児と交流し、自然を生かした遊びを自分たちの生活に取り入れている。また、通学路の歩き方を交通安全協会の方に教えていただくなど、地域の方と関わる活動も取り入れている。

2 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- このような活動の結果、全国学力学習状況調査では、「地域の行事に積極的に参加している」と答えた児童の割合はR3年度80%（全国58%）となっており、コロナ禍で行事は削減されているが主体的に地域と関わろうとする児童の姿につながっている。また、保護者アンケートでも、「学校は地域と連携し『ふるさとを愛する心』を育てている」と感じている割合は令和3年度1学期は98%（令和2年度は95%）となっており、地域の方にもこうした学校の取組が広がり、学校に対する温かい支援が増えてきている。
- 近年は、コミュニティ・スクールの一貫として、ボランティア登録も含め、学校の授業や行事、様々な活動に地域の方がいろいろな形で参画して学校を応援してくださっている。さらに、多くの方に支援をしていただくために、平成30年度より「コミュニティサポーターズ総会」を開き、協力を依頼する行事や学習内容等を明示することで、見通しのある活動となり、登録者数も増えてきている。しかし、今年度はコロナ禍のため、年度当初に予定していた行事の多くが中止もしくは予定変更となっている。今年度は、遊具の補修やペンキ塗り、草刈りなどの「環境整備」、公民館見学や交通安全教室での指導などの「行事支援」、音楽や総合的な学習の時間での「学習（体験）支援」、登下校の見回りなどの「安全支援」をしていた。
- 児童会を中心に地域清掃活動を企画し、全校児童が地域の方と共に清掃活動を行った。事後には、各地区の区長さんにお礼の手紙を書き、活動の協力と日頃の感謝を伝えた。広幡敬老会（9月・今年度は中止）、広幡公民館春祭り（3月）にも子どもたちが積極的に参加し、学習の成果を発表したり（1・3年生）、家族の作文を発表したり（4年生）、書道や絵画の作品を展示したり（全校）するなど地域行事に参加する予定である。

3 活動を通しての児童生徒の変容

- コロナ禍で行事等は削減されてきているが、近年、こうした活動を続けてきたことで、継続して地域との関わりをもち続けることができている。また、ユネスコスクールとして、本校が取り組んでいるふるさと学習をSDGsと関連させて位置付けたり、コミュニティ・スクールであることを生かし、地域ぐるみで児童を育てよう取り組んだりしていることで、地域やふるさとに誇りをもつ心がさらに育っている。児童も広幡地域で大切にしている合言葉「広幡はひとつ」を意識して過ごしている。
- 1年生では、交通安全協会の方に通学路の歩き方を教えてもらったり、消防団の方の協力で消防車の役割について学習したりすることで、地域の人々と主体的に関わる姿が増えた。
- 2年生では、広幡にある自然にふれ、自然豊かな「広幡のよさ」に気付き、もっと広幡のことを知りたいという意欲につながった。
- 3年生では、公民館活動を知ることで、人と人との温かいつながりに気付き、「ふるさと広幡」に親しみをもつことができた。
- 4年生では、ファブリダムについての話を聞き（ビデオ）、地域の人たちが協力して水を調整・管理していること、そのおかげで地域全体で米づくりができることを知った。過去に起きた災害を知ることで、先人の努力によって今の生活が成り立っていることに感謝し、ふるさとを大切にしたいという心情をもつことができた。
- 5年生では、地区の自慢であるハリヨの生態を学び、校地内のハリヨ池での観察や池の清掃を通して環境の現状を知り、ふるさと広幡の自然の豊かさに感謝するとともに、これを守るために自分たちができることを考えることができた。
- 6年生では、地域の歴史を調べ、ふるさとオリエンテーリングを計画する活動を通して、ふるさと広幡のすばらしさに改めて気付くとともに、田中道麿翁の生き方から、「自分たちも努力を惜しまず、夢をもって前へ進んでいきたい」という願いをもつことができた。
- どの学年においても、学ぶことだけにとどめるのではなく、「広幡ふるさとオリエンテーリング」や3学期に予定している「総合的な学習の時間（生活科）の発表会」などの場で、学んだことやふるさと広幡のために自分たちができることを考え発信することで、人々と主体的に関わり、自分の思いや考えを伝えようとする力が育ってきている。